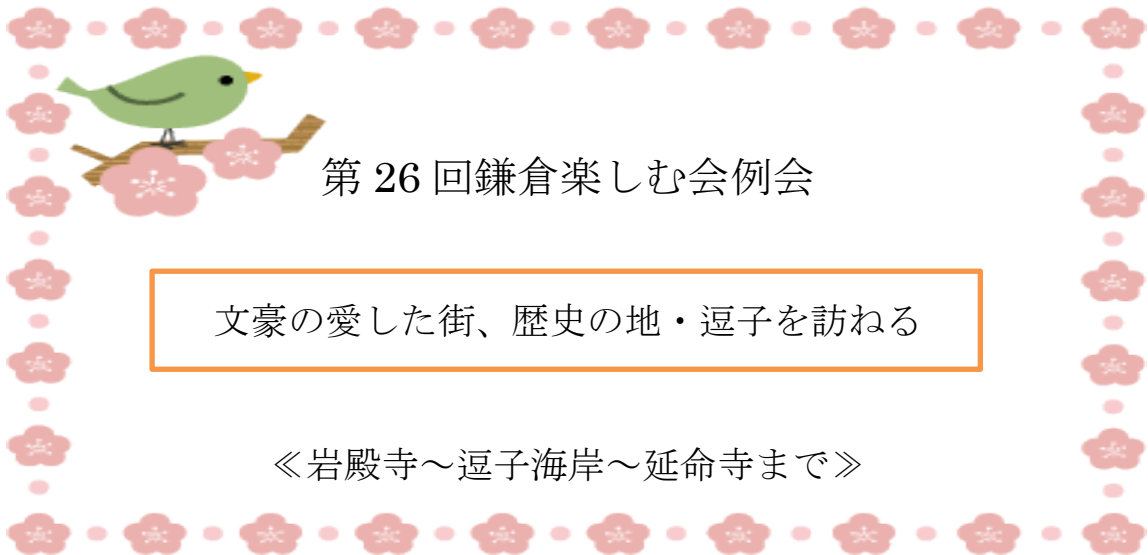




平成 31 年 2 月 27 日（水）

● 逗子の地名の由来 （逗子・延命寺 HP より）

奈良時代、行基菩薩が御自作された延命地藏尊を安置した。平安時代に入り、弘法大師（空海）が下野国、二荒山に行脚の折、この地に立ち寄り、この延命地藏尊を安置する厨子をお造りしたそうです。

この「厨子」を住民が大切にお祀りし、いつしかこの一帯が「厨子」となったそうです。以来、住民尊信の的となり、この地一帯を「厨子」と呼び、近時より「逗子」という起源になったとされています。

● 明治 22 年（1889）横須賀線の開通により、保養地として鎌倉とともに栄え、また多くの文学者が住みその小説には逗子が登場するようになってきた。

「婦系図」で一世を風靡した「泉鏡花」は古刹岩殿寺辺りに保養し、住職との会話を楽しみとし構想を練ったという。「徳富蘆花」の「不如帰」は高養寺辺りを舞台とし、高養寺は「不如帰」の主人公浪子から、地元では「浪子不動」とも呼ばれ、海岸の岩場には兄の「徳富蘇峰」の揮毫による石碑が建っている。

また、「石原慎太郎」の「太陽の季節」の題材となった土地であり、その記念の碑も逗子海岸には立っている。

● 第 72 代白河天皇（1073～1129）の北面の武士に登用された平正盛は備前守となり、瀬戸内海に勢力を伸ばし、嫡子の忠盛から清盛の時代へと平氏政権を築いていった。しかし治承 4 年（1180）源頼朝の旗揚げにより、平家も落日となっていく。清盛と嫡子・重盛の死により、重盛の嫡子・維盛時代に入ったが遂に源氏により西国に露と消えていった。京に隠棲していた維盛の嫡子・平六代は北条時政に見つかったが、文覚上人の命乞いにより僧籍の身となった。

しかし、源頼朝の死（1199）から 1 か月後、逗子の地で処刑されてしまいます。ここで平清盛の家系は断絶してしまうのです。



披露山公園よりの眺望

* コースのポイントオ説明 *

① 岩殿寺



● 山号 海雲山・開山、徳道上人、行基菩薩・曹洞宗・建立養老 4 年（720）頃。

● 寺伝によれば、聖武天皇の勅願により奈良の長谷寺から、この地に下向した徳道上人が開山したと云われています。また、数年の後に行基菩薩が訪れて、十一面観音の石像を安置したのが寺の始まりと云われています。

正暦元年（991）花山天皇が訪れ、承安 4 年（1174）77 代後白河天皇が訪れ、岩殿寺を坂東三十三番目の霊場と定めた。

● 源頼朝が蛭ヶ小島にいた頃、文覚上人の勧めで、当時の本尊を篤く信仰し、石橋山の戦乱の時、敗色濃く、観音が舟人となって房州に渡し、たちまち十一面観音の妙容をあらわして三浦の方に飛び去ったという。

● 寺勢は一時衰退したが、天正 19 年（1591）徳川家康によって再興された。観音堂は享保 13 年（1728）の再建。

● 明治に入り、明治 35 年（1902）から 4 年の間、作家・泉鏡花が療養生活を送っていた時、足繫く通って住職と懇談したという。境内の「鏡花の池」は泉鏡花が寄進されたものである。

● 左の画像は「爪堀地蔵」です。この地を訪れた弘法大師が、手足に苦しむ人々のために自らの爪で彫ったと伝えられています。

② 披露山公園



● 逗子の隠れた名所。その展望の良さは抜群。展望台からは逗子マリーナ、江の島、そして、お天気ならば「白雪の優美な富士山」も一望できます。

南側には葉山マリーナと三浦半島の雄大な自然が見渡せる最高のロケーションが展開しています。

● また、園内にはニホンザルや水鳥など小動物が飼われています。

③ 浪子不動ハイキングコース



● 標高 70m の披露山公園から逗子海岸に至る緑豊かな楽しいハイキングコースです。降り口はバッチリ海に面した高養寺の前に出ます。

④ 高養寺（浪子不動）



- 真言宗高野山派。寺伝によると弘法大師の開山という。
- 海上の安全を願って古くから不動明王が祀られ「白滝不動」とか「波切不動」とよばれていた。「白滝」の名は左奥の崖にある小さな滝からきています。
- 明治の文豪・徳富蘆花のベストセラー小説「不如帰」が、ここを舞台としていたことから、悲恋のヒロイン「浪子」にちなんで「浪子不動」と呼ばれるようになりました。本堂は葉山にあった慶増院の建物を昭和28年（1953）に移築したものです。高養寺の名は、葉山にゆかりのあった二人の政治家・高橋是清（第20代内閣総理大臣・1854-1936）と犬養毅（第29代内閣総理大臣・1855-1932）からとられています。
- 本堂の前の海中に立つ「不如帰」の碑は、昭和8年（1933）に建てられました。碑の文字は蘆花の兄・徳富蘇峰の筆によるものです。碑の基盤には蘆花愛用の筆と硯が納められています。
- 碑の石は、江戸時代初め江戸城の天下普請のために鍋島藩が伊豆から江戸へ海上輸送中に嵐に遭い、逗子沖で難破し置き去りにされた鍋島石と云われていました。（説明板より）
- 「さくら貝の歌」の記念碑もあります。

⑤ 逗子ロードオアシス



- 逗子海岸通のパーキング内の食堂で昼食予定です。¥1,000～¥1,500 位です。お天気で、風が強くなければ、砂浜でおにぎりをいただく方法もあります。今回は、ここで昼食します。

⑥ 逗子海岸（海水浴場）



- 相模湾に面した海岸で逗子海水浴場として知られる。キャッチフレーズは！
“太陽が生まれたハーフマイルビーチ”
遠浅で波も穏やかであり、浜が小砂利で貝殻や泥が少ないのが特徴。ウインドサーフィンなどで有名です。
- 陸軍軍医の石黒忠恵（ただのり）らによって、明治25年（1892）頃より海水浴場として最適であると宣伝された。大正の頃より逗子海水浴場として知られるようになった。

⑦ 太陽の季節・・(記念の碑)



● 平成 17 年 (2005) 石原慎太郎の著書「太陽の季節」芥川賞受賞 50 周年記念を祝い建てられました。尊敬していた「岡本太郎」画伯の「若い太陽」が存在感を示しています。

⑧ 渚^{なぎさ} 橋



● 逗子の市街を流れる鯉も悠々泳いでいる清冽な田越川が逗子海岸にそそぐ河口に架けられている橋です。付近には、洒落た「なぎさ珈琲」店があり、眺望抜群です。

⑨ 蘆花記念公園



● 徳富蘆花 (1868-1927) は明治 30 年 (1897) から逗子に住み、自宅で来客の婦人の語った噂話のエピソードを元にした小説「不如帰」を、「国民新聞」に 7 ヶ月にわたって連載し、一躍有名になった。明治 33 年 (1900) には劇団新派で公演され、映画にもなり、刊行後 30 年で 185 万部のベストセラー小説となった。モデルとなったのは留学子女の「大山捨松」のようでした。明治 40 年 (1907) には世田谷区糎谷に転居。自宅を「恒春園」と命名し執筆活動を続けた。

⑩ 平六代 (高清) の碑



● 幼名は平正盛から数えて直系の六代目に当たること因んで「六代 (ろくだい)」と名付けられた。寿永 2 年 (1183)、木曾義仲に京が攻められ、平氏が都落ちを決意した時、父の維盛は妻子を都に残して一門と共に西走した。六代は母と大覚寺北に潜伏していたが、平氏滅亡後の文治元年 (1185) 北条時政の探索で捕らえられた。斬首になるところを文覚上人の助命嘆願が叶い剃髪し「妙覚」となる。しかし、源頼朝の死と文覚上人の流罪で庇護者が居なくなると、田越川にて処刑されてしまった。

⑪ 延命寺



● 行基菩薩、弘法大師ゆかりの古刹。逗子の地名発祥の寺となっています。高野山真言宗。天平年間 (729-749) 行基菩薩が自作の延命地藏尊を安置したのが寺の始まりです。永正 9 年 (1512) 小田原後北条と戦った三浦軍の武士七名の戦死者の供養塔も静かに佇んでいます。

⑫ 亀ヶ岡八幡宮



● 創建や縁起については不明ですが、祭神は応神天皇。逗子の鎮守となっています。境内はなだらかな岡で亀の背中のようにであったということから、亀岡と呼ばれた。敷地は 1,117 坪あったが市役所などに割譲された。現社殿は大正 12 年 2 月 (1923) に新築された。9 月の関東大震災では無事であった。

神奈川県逗子市新宿2丁目 付近



1 : 17,000 相当

地図上の1センチは 約 170 メートル
印刷中心は 東経 139度34分16秒 北緯 35度17分41秒